

(様式2)

平成 25 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200281		
法人名	社会福祉法人長岡三古老人福祉会		
事業所名	グループホーム中之島		
所在地	新潟県長岡市中之島字古新田2105-6		
自己評価作成日	平成23年12月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/15/">http://www.kaigokensaku.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成26年1月30日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長岡三古老人福祉会の8ヶ所あるグループホームの一つとして、法人内のグループホーム間の交流や同一敷地内にある特別養護老人ホーム中之島、デイサービス中之島等とも交流を深め馴染みの関係ができています。また、グループホーム中之島前には、稲田、二千年蓮田、水連、大口蓮根田が広がっており、二千年蓮は7月に二千年の時を感じさせる見事なピンク色の大輪を咲かせる。続いて悠久山から分けていただいた水連が咲き、秋には水田の稲穂がたわわに実り季節をつぶさに感じる事が出来る。ご利用者の出来ることを大切に、日常生活全般において寄り添う事を基本として“私らしい暮らし”を安心して送れるように支援している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体である社会福祉法人は、長年地域の高齢者福祉ニーズに積極的に取り組んできており、特に認知症ケアには実践的な取り組みを行っている。

事業所は、高速道のインターチェンジ近くの工業地域に位置しており、近年は新興住宅街の発展と共に同一敷地内にある特別養護老人ホームを本体施設とし、母体施設と連携して防災や地域交流のあり方について積極的な検討を行っている。本体施設と共に、利用者・家族の満足度把握のための実態調査を毎年実施して利用者・家族の思いを知り、それをケアにつなげていけるように日々取り組んでいる。

事業所内の日課では特に集団活動を設けず、利用者一人ひとりの個性に合わせた「ゆったり」とした時間作りがなされている。特別養護老人ホームが本体施設であるという利点を活かして、重度化してもそのまま住み続けることができるよう積極的に取り組んでおり、利用者・家族の信頼度も高い。地域密着型事業所として地域から信頼される事業所づくりを目指し、特に利用者・家族との信頼関係づくりへの取り組みには力を入れている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々や、家族の方々に感謝の気持ちを忘れず、謙虚な気持ちを持って、地域とのつながりを大切に取り組んで行く事を理念の一つとして掲げている。	法人理念とは別に、2年前に職員間のグループワークを通じて事業所独自の理念3点を作成しており、独自の理念作成は2回目である。理念の掲示を行うと共に、日々の実践の中で理念の振り返りを行い共有化が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや施設の行事と一緒に参加している。同一敷地内の特養と共に祭りなどの行事を開催し、地域の方々にも参加頂いている。	地域の祭りの神輿や小中学校の福祉活動の受け入れ、町内会のゴミ拾い行事への参加、7月開催の蓮祭りや、コシヒカリ収穫祭での交流等、新興住宅地に位置する中での地域とのつながりについて、本体施設と共に積極的に模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が事業所の実践を踏まえ、地域の会合への出席や各種研修会の講師として関わる等、認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、取り組みや利用者の状況を報告し意見をいただいている。また、会議後推進委員と共に食事会等を催し、利用者の意見を取り込んでいただいた中でアドバイスをいただいている。	利用者、家族、地域住民代表者、行政担当者等を構成員として、概ね2カ月に一回の頻度で開催しており、メンバーが参加しやすいように土曜・日曜や平日の夜に開催日を設けている。町内会のゴミ拾い行事への参加等、地域との接点作りのアイデアを得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員に参加して頂き、意見や助言をもらっている。市の介護相談員に来所して頂きサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議へ介護保険課担当者が参加している。また、長岡市の介護相談員を2カ月毎に受け入れている。管理者及び計画作成担当者は、行政主催の長岡地域介護研修の講師として参加し、行政との協力的な関係を築けるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同一敷地内の特養と合同で職員研修を開催し、その研修会に全員参加する事で身体拘束などの共通認識を図っている。	マニュアルが整備されており、本体施設との合同研修が年間を通じて計画され、参加できない職員には伝達研修も行われている。利用者の思いに沿うよう行動の理由を考えて身体拘束をしないケアの実践について共通認識が図られている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一敷地内の特養と合同で職員研修を開催し、その研修会に全員参加する事で虐待防止などの理解、支援を学び虐待に対して意識し、見過ごされないように防止に努めている。	マニュアルが整備されており、新人研修を含めて本体施設との合同研修が年間計画で実施されている。参加できない職員には伝達研修が行われ、職員は「何が虐待にあたるのか」を理解し、虐待防止の徹底について共通認識が図られている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とする人はいない。今後、必要に応じて勉強する機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所後の段階で家族へ十分な説明を行い、理解、納得を得ている。また、利用者の状況に合わせて家族へのこまめな連絡を通して関係作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護相談員を定期的に受け入れ、利用者の相談にのってもらっている。頂いたアドバイスや意見等はミーティングで話し合い反映させている。玄関前に意見箱を設置している。	平成25年度も事業所独自のサービス評価アンケートを実施するなど家族の声を拾い上げる取り組みを行っており、また、家族の面会時には話しやすい雰囲気づくりを積極的に行っている。家族の意見をもとに、家族の状況に応じて、通院介助や日用品購入の支援を行うようになった。定期的に訪問する市の介護相談員には利用者の話を聞いてもらい、事業所にフィードバックしてもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング時や毎月1回の部署会議、経営会議の場を設け、意見や提案は反映させている。	毎月の職員会議や運営会議及び毎日のミーティングを通じて、管理者及び計画作成担当者は職員の提案を聞き出すよう心がけている。具体的な成果として、玄関に感染症防止用の薬剤噴霧器を設置する等の業務改善のアイデアが活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜現場の状況を確認し、変化や状況に合わせて環境整備、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一敷地内の特養と合同で研修会を開催の他、法人内の研修会に参加や他事業所の研修会への参加の機会を設け、資格所得への支援や自己学習への支援に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームで月一回の会議を設け、情報交換を行ったり、法人内のグループホーム間で交換研修を行うことによりサービスの向上を目指している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族、各機関から情報をもらい、本人と面談を通して生活状態を把握するように努めている。入所の不安をなくするためにも事前にご家族と共に訪問頂くなど安心を確保頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と入所前に面談し、生活状況、要望、不安などをお伺いしている。その際に施設の状況、雰囲気などをお伝えしている。その他、関係機関などと連携を図り情報を頂き参考にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要なサービスは何か、管理者、看護師など他職種に相談し、必要なサービスにつなげられるよう法人内施設中心に連絡を取り合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ること出来ない事を見極め、役割分担をする事でお互い協力しながら生活か送れる場面作りをし、共に生活する者同士の関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時など積極的にコミュニケーションを図り、相談をしたり協力をお願いする。行事などにも参加を呼びかけ出来る限り、本人と一緒に時間が持てるようにし、共に支えていく関係を築いている。	利用者には一人概ね月1回以上家族の面会があり、事業所の三人行事のバイキング食事会、忘年会、餅つき行事には、ほとんどの家族が参加している。事業所側からの積極的な働きかけにより家族とのコミュニケーションが図られ、家族との結びつきは強い。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの美容室へご家族と行かれたり、受診後などに行きつけのお店で食事をされてくるなど、住み慣れた地域との関係が壊れないように支援に努めている。友人や知人が来られた際にはお部屋にお通しするなどゆっくり過ごしていけるように努めている。	家族の協力を得ながら、馴染みの美容室に通ったり、外食したりしている。利用者への電話の取次ぎや面会者への湯茶接待など、利用者の馴染みの関係が継続できるよう事業所側として積極的に支援を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を見ながら利用者同士のコミュニケーションを図るため職員が仲介に入り、孤立する方がいないよう関わっている。時には同一敷地内の特養やデイサービスにもお邪魔しているいろいろな方と交流できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ入居されて方には、今まで共に生活された利用者との面会に行ったりすることで、交流を継続できるよう努めている。特養の介護士や看護師等とも情報交換を行い、これまでの生活がそ壊れないよう連携に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で一人ひとり会話を大切にし、希望や意向の把握に努めている。希望や意向については職員間の話し合いや、ご家族へ相談するなど少しでも実現できるように努めている。	センター方式アセスメントの「Dシート」を活用しながら、利用者との日々の関係を通じて思いや意向の把握に努めている。毎年9月にシートの再記入作業を行い、利用者本位のケアが実践できるよう努めている。	利用者の思いや意向を全職員が共有できるよう、日々の気づきをDシートにその都度追記していくなど、情報を積み重ねていくためのさらなる工夫が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から、詳しく話をお聞きし、今までの生活がわかるような可能な限りの情報を提供頂き、職員に情報として提供している。利用者本人から好きなこと、趣味などをお聞きし、把握することで今までの生活環境を維持できるように努めている。	以前担当していた居宅介護支援専門員からの情報や、入居時に家族からセンター方式アセスメントの「Bシート」を記入していただくことにより、これまでの生活史を把握するよう努めている。また、日々の関わりの中で知り得た情報は連絡ノートに記載して情報の共有化を図っている。	入居後に職員との関係性の中で知り得た情報を全職員が共有できるよう、Bシートにその都度追記していくなどのさらなる工夫が期待される。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	週1回看護婦による体調チェックや毎日のバイタル測定、月1回の体重測定を実施し、利用者の身体状況の把握に努めている。個々の生活リズムをつかみ、状態を記録に残したりミーティングなどで情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、本人、ご家族の思い、希望、意見などをお聞きし、反映させるよう努めている。本人やご家族からお聞きしたことを個別担当職員、計画作成者が話し合い、思い、希望、意見を反映させてケアプランの作成を行っている。	日頃から本人、家族の意見等を聞いて連絡ノートで共有し、また、年1回アセスメント表の見直し・再記入を行って、介護計画作成に反映させている。昨年、使用している介護計画作成のシステムが新しく改訂され、より適切な評価が行えるプログラムとなった。毎日サービス実施状況をチェックし、3カ月毎にグループホーム会議にてモニタリングを行って結果を共有し、次の計画につなげるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子、状態変化や職員の気づきなどは、個々の記録に残し、職員間で情報を共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出、他部署との連携した活動に参加し、法人内で情報交換等をして柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やお祭りなど、広報誌や回覧で情報を得ることができる。地域の協力もあって参加や利用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医や受診はご本人ご家族の希望されるかかりつけ医である。看護職員が状況によって介入し支援している。	かかりつけ医への受診同行は家族が基本ではあるが、必要に応じて事業所側で対応したり家族に職員が同行することもある。利用者についての情報のやり取りを家族や医師と的確に行えるよう、連絡シートの活用含めて積極的な取り組みを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいたことがあれば、すぐに看護師に連絡、相談できる体制を取っており、日常の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供を行い、入院中は、看護師やソーシャルワーカーと連絡を取り合っており、本人やご家族が安心して治療できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて法人内の多様なサービス機関と連携し、相談させていただくことを基本にしている。ご本人や家族と充分検討して共有できるように努めている。	入居時に、重度化の指針を含めて事業所ができる事、できない事の説明を家族に行っている。看取りの事例は発生していないが、本体施設の機能を活用することにより、本人・家族の意向に応じて看取りに対応するという意識の共有化が全職員に図られている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアル、誤嚥転倒時のマニュアル等を整備して周知を図っている。同一施設内の特養と共に研修を行い実技を含めて勉強会を行っている。	夜間を含めての急変時の対応マニュアルが整備されている。本体施設と合同で、緊急時の対応の研修を行っている。法人内で事故・ヒヤリハット報告書の統一書式が整備され、「リスクマネジメント委員会」を通じて事故事例等の情報共有が図られており、事故対応や予防に活用されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しており、消防署、地域の方にも立ち会って頂いての防災訓練を行っている。法人全体の協力体制が構築されている。	水害を含む災害対応マニュアルが整備されている。10月と11月に本体施設と合同で、消防署及び町内会の立会いと参加を得て災害避難訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の状況に合わせた声掛けや対応を心掛けて十分留意している。個人情報においては鍵付きの書棚に保管している。	認知症対応マニュアルと個人情報取り扱い指針が整備されている。個人の尊厳を守る取り組みとして、全体研修において個人情報保護法と認知症への理解についての研修が実施されており、「その人らしさ」を支える姿勢が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で自己決定できる環境作りを行い、利用者に合った言葉掛けや気配りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	表情や周囲に気配りしながら、一人ひとりのペースを大切にして希望に添った生活を送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容は本人の希望をお聞きしたり、ご家族と相談しながら、近所の美容室を利用している。本人の趣向を大切にして、おしゃれできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の出来る事を尊重して調理や盛り付け、かたづけ等を中心に職員とともにやっている。利用者や職員と一緒に食卓を囲み楽しく食事をしている。	週3回程度近隣のスーパーへ食材の買出しに行き、週1回は利用者の希望を取り入れたリクエストメニューが組まれている。マグロの解体ショーを企画したり、外食を行ったりと、食事を楽しむ支援が積極的に行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内のグループホームと共同して栄養士のアドバイスをもとにバランスの摂れた献立作りを心掛けている。一人ひとりにあった形態や量に気配りしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをして、歯磨きをして頂いている。一人ひとりの状態にあった介助を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促す、ご利用者の苦手をサポートし、気持ちよく過ごせるように自立支援に努める。	観察を通じて利用者本人の行動パターンやサインの把握を行い、個々に合わせてトイレでの排泄支援を行っている。さりげないトイレ誘導を行うことでプライバシーを確保するとともに、トイレでの排泄が継続できるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳は毎日摂って頂けており、ゼリーやヨーグルトなどこまめにとい入れている。一人ひとりの状態に気配りして、体操や散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や、気分に合わせて、週2回以上は入っていただけるようにしている。季節感や入浴を楽しめるように入浴剤等にも工夫している。	週2回以上の入浴が確保されている。基本は午前入浴であるが、本人の希望や状況に合わせて午後入浴も実施している。季節感を楽しめるよう菖蒲湯や柚子湯の企画も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や傾向を把握し、生活リズムが安定出来るように支援している。季節や体調なども含めて、安心して休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、処方箋のファイルやメモを綴り、把握できるように工夫している。変更や追加がある場合は文章と口頭で申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味の傾向や、生活歴を参考にし、活躍する場面を提供できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーの買い物は週に2～3回出かけており敷地内の施設に出かけることも多い。季節を意識した外出活動を計画し支援している。	本体施設に用事のある時には、必ず利用者を同伴したり、敷地内ベンチで日光浴を行うなど戸外へ出る機会としている。また、弥彦温泉の足湯、高田公園のお花見、海岸、歴史博物館などの観光施設等、月1回以上の外出を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーの買い物の際には、支払いをして頂き、社会参加の場面をもうけている、本人が希望され家族の理解があれば、自己責任の下、指示してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば、電話を掛けてもらったり、手紙のやり取りを自由にしてもらえるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を生けたり、食堂やリビングの様替えを行って居心地の良い空間づくりをに努めている。季節折々の事柄や行事を取り入れながら懐かしんでもらえるよう努めている。	リビングは天井が高く、正面の壁には北アルプスの大きなパネルが掛けられており開放感を感じられる。訪問調査時は、小正月行事の団子飾りで季節感が演出されていた。各居室入口にはそれぞれ色とりどりののれんが掛けられ、廊下にも落ち着いた雰囲気を作り出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置や場所を工夫して、好きな場所で自由に過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に理解協力して頂き、馴染みの物などを取り入れ、安らぎや安心感を持って頂けるように配慮している。	居室には過度な飾りつけを行わず、持ち込み家具の中で安心して過ごせるよう配慮している。使い慣れたミンやハサミを家族の理解の上で持ち込み、バッグ作りやズボンの裾上げ作業を行っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり、出来る事やわかる事に関しては、出来る範囲で自立して頂けるように、安心して安全な環境作りに努めている。		